

紀伊半島大水害から15年 命を守るための備え

今年は、平成23年紀伊半島大水害から15年を迎えます。自然災害はいつ、どこで起こるかわかりません。過去の教訓を忘れず、日頃の防災対策を見直し、いざというときに備えましょう。

き き かんりしやうぼうか
危機管理消防課
☎ 073-441-2260
ぼうさいきかく か
防災企画課
☎ 073-441-2271
さいがいたいさく か
災害対策課
☎ 073-441-2262
(3課共通)
☎ 073-422-7652

問い合わせ

大水害で起きたこと

2011年9月、台風第12号による記録的な豪雨により、紀伊半島では大規模な土砂災害や河川の氾濫が相次ぎました。県内では死者・行方不明者が、那智勝浦町29人、新宮市14人、田辺市9人、日高川町4人、古座川町3人、みなべ町1人、有田市1人の計61人、全壊・半壊などの建物被害が8,465棟に上る甚大な被害が発生しました。



那智川流域の市野々小学校を襲った河川氾濫および土石流

INTERVIEW - 01



新宮市熊野川町区長
連絡協議会 会長
しもさか しげやす
下阪 殖保 さん

だくりゆう 濁流の中で救助に向かった あの日の経験から伝えたいこと

あの日は、辺り一面が濁流にのみこまれ、とても怖かったですし、今でもその恐怖心は残っています。当時は、「近所の人たちを助けないと」という気持ちも強く、ボートで高齢者や孤立している住民の救助に向かいました。水害の経験から、皆さんに伝えたいことは「怖いと思ったら、すぐ逃げること」です。何よりも命を優先して、早めに避難してほしいです。

思いが詰まった黄色いひまわり 地域の人や訪れる人を元気に

災害を忘れないように、また、地域を元気にしたいという思いで、水害の翌年から毎年ひまわりを育てています。今でも、ひまわりの開花時期にはたくさんの方が見に来てくれますし、私自身も明るい黄色のひまわりから元気をもらっています。

画像提供：
新宮市熊野川行政局



崩壊により土砂が住居まで到達した現場

大雨の際に 注意したい前兆



紀伊半島大水害では、記録的な大雨により河川の氾濫だけでなく土砂災害も各地で発生しました。土砂災害が発生する際には、前兆現象(前ぶれ)が確認されることが多いため、普段と違う異変を感じた場合はすぐに避難しましょう。さらに今年5月からは、新たな防災気象情報の運用(詳しくは5ページで紹介)も始まりました。土砂災害や大雨の危険が高まる前に、早めの行動を心がけましょう。

◆ 土砂災害の性質と前兆

土石流

- 山鳴りがする
- 川の水位が下がる
- 川が濁り流木が混ざる



がけ崩れ

- 崖からの水が濁る
- 崖に亀裂が生じる
- 崖から小石が落下する



地すべり

- 地面にひび割れが生じる
- 沢や井戸水が濁る
- 斜面から濁った水が噴き出す



地域ので災害に備える 「自主防災組織」の存在

自主防災組織とは、地域住民が協力しながら、自分たちの地域を守るために自主的に活動する防災組織です。



INTERVIEW - 02



撮影場所：下神野小学校体育館

しもこうの
紀美野町下神野地区
自主防災組織 会長
まつもと もりのぶ
松本 守信 さん



左／簡易担架づくり 右／防災訓練での松本さんの講演

反応と課題をふまえ 工夫を重ねていく防災訓練

防災訓練は毎年行っており、参加者の反応を見て、訓練の内容も毎回少しずつ変えています。紀美野町も3年前に水害の被害を受け、避難所を開設しましたが、訓練の経験もあり、大きな混乱なく運営することができました。実際の避難時に見つかった課題は、対策を考え、次の訓練で試すようにしています。

いつものつながりが、いざという時の力に

過去の訓練で、学生と地域の人が防災を語り合うメニューがあり、交流の時間として参加者から好評でした。実際の避難時には「避難所には知っている人がいるから安心する」といった声もあり、普段から地域で顔を合わせる機会をつくっておくことが何より大切だと思います。